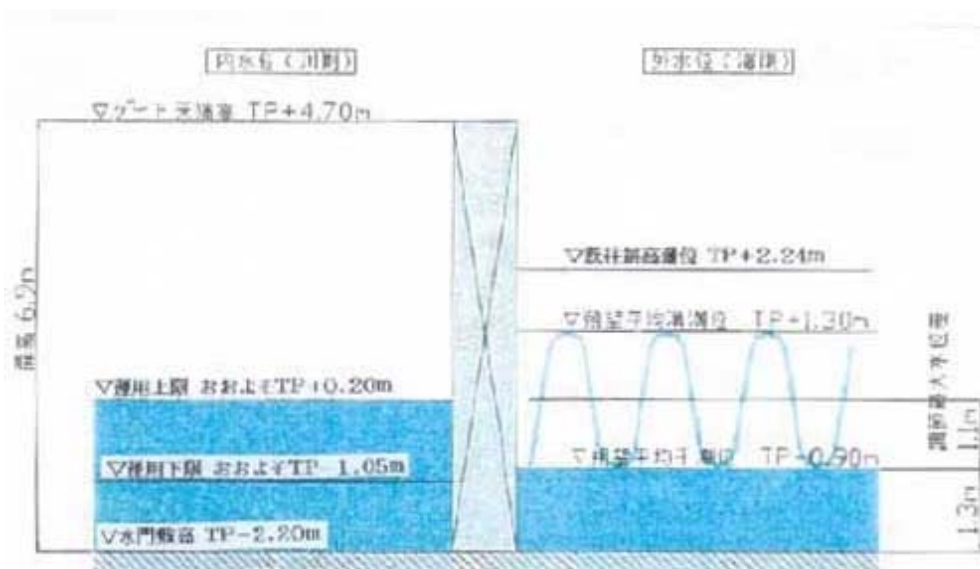


- ・ 平常時に百間川の水を溜めすぎる。
- ・ 台風が来る前には早めに水位を下げ、より安全にすべきでは？

以前と比べて近年では経済性を考慮し、実態として河口水門の操作回数は減少しています。出水期中（６月～１０月）については、洪水等を考慮した操作により操作回数は以前と比べてもさほど変わりませんが、非出水期については、操作回数に大きな差が出ています。

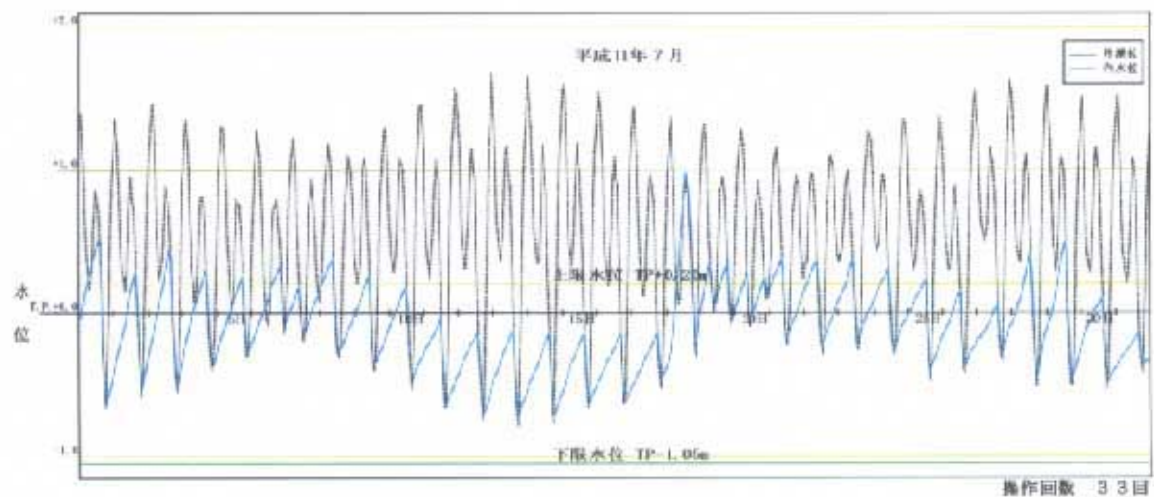
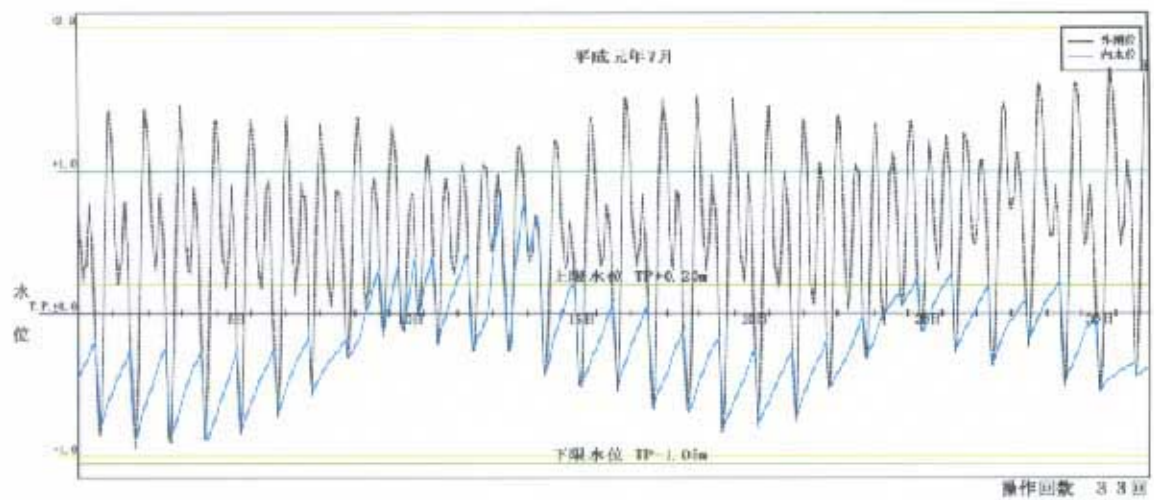
内水位については、水田への浸水被害や舟の航行への支障を考慮しておおよその上限水位・下限水位を設定し運用しています。

内水位の上限はおおよそ $T.P + 0.2m$ としており、外水位（朔望平均満潮位 $T.P + 1.3m$ 、朔望平均干潮位 $T.P - 0.9m$ ）と比べても水を多く溜めているという状況とは言えません。そのため、運用は潮位変動に従って行うものであること、内水位の下限水位を考慮する必要があることより洪水の事前に内水位を意図的に下げることは困難と言えます。



水門操作実績（出水期：7月）

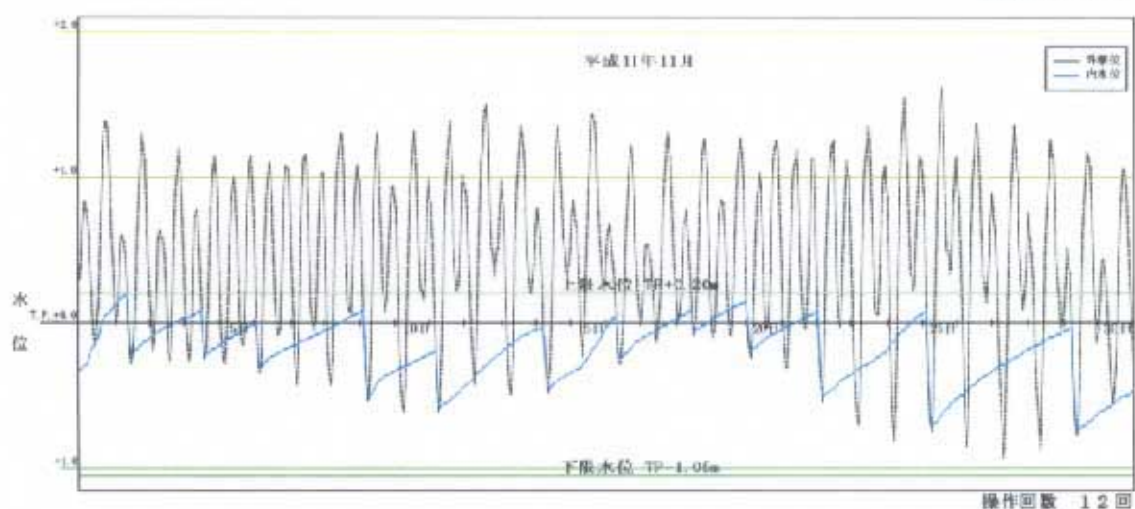
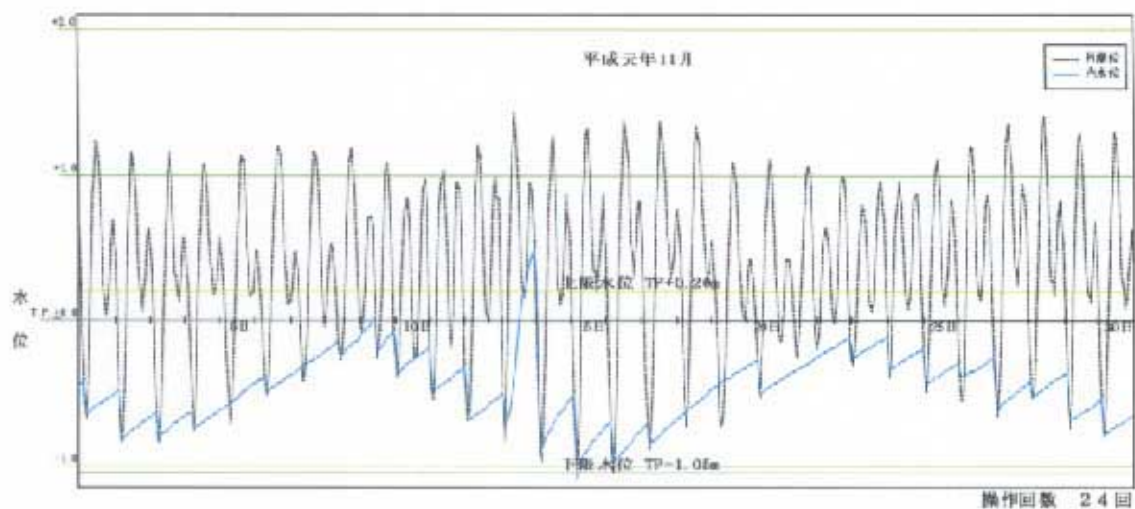
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
H元	24	23	27	23	29	25	33	34	37	28	25	20	328
H11	6	6	14	16	15	25	33	33	33	18	12	6	217



※運用回数はほぼ同じです。

水門操作実績（非出水期：11月）

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
H元	24	23	27	23	29	25	33	34	37	28	25	20	328
H11	6	6	14	16	15	25	33	33	33	18	12	6	217



※平成11年度は効率性、経済性を考慮し、開放回数が減っています。

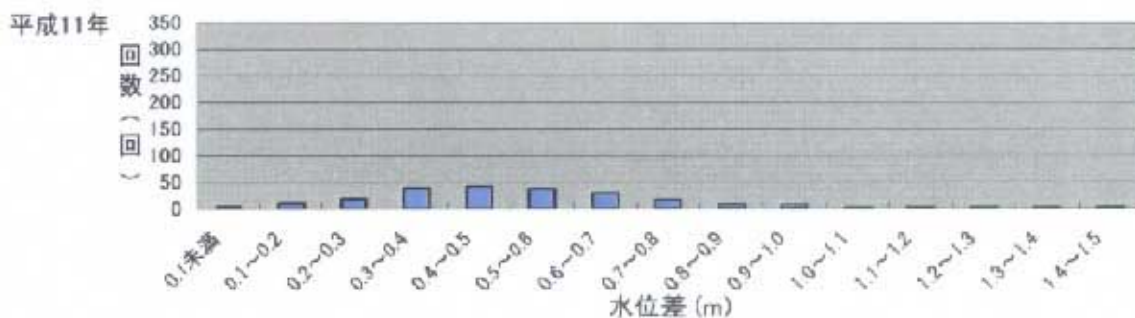
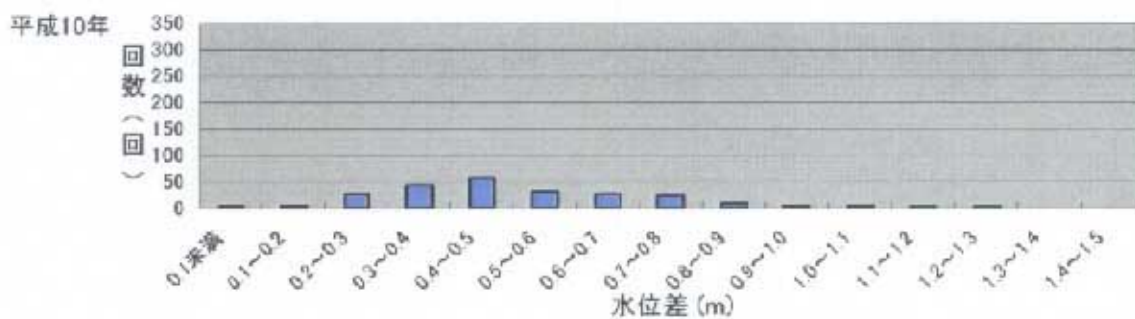
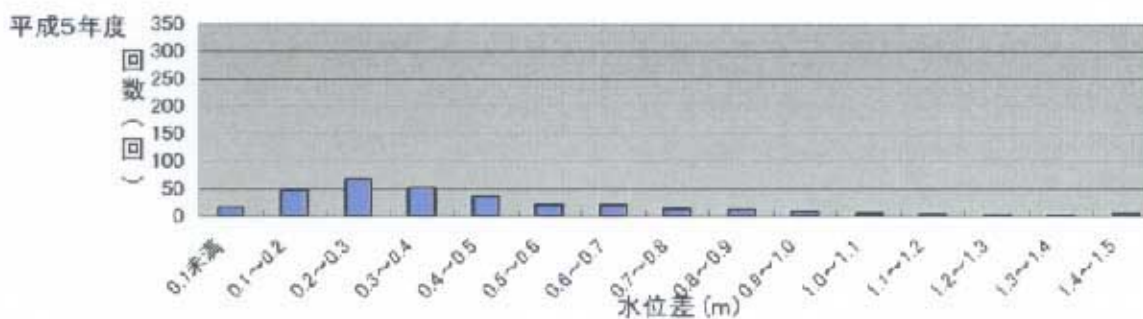
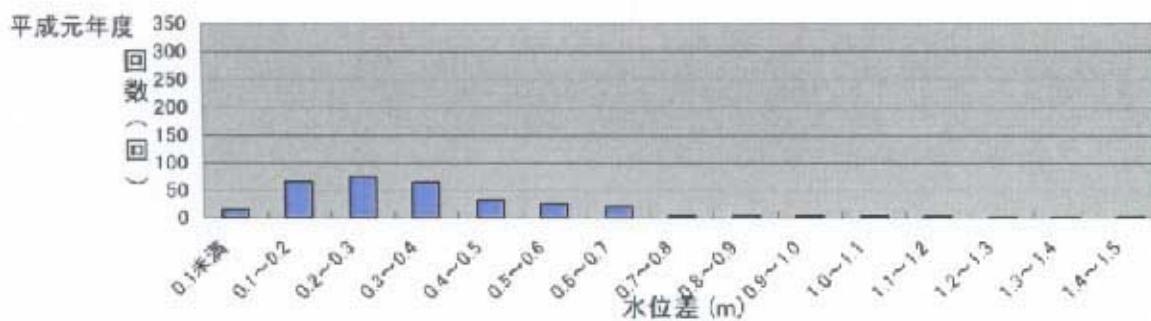
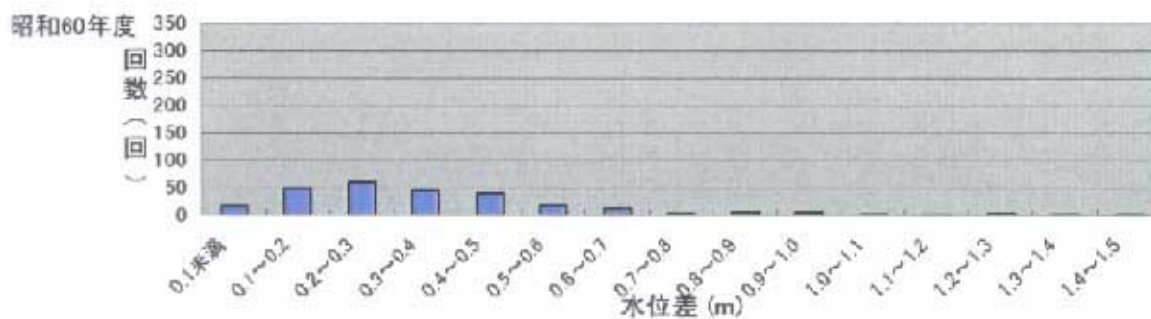


図 水位差

考察：以前に比べ、開扉時内水位が高いことや開扉時間が長いことから、1回の操作で下
げている水位差は大きくなっている。

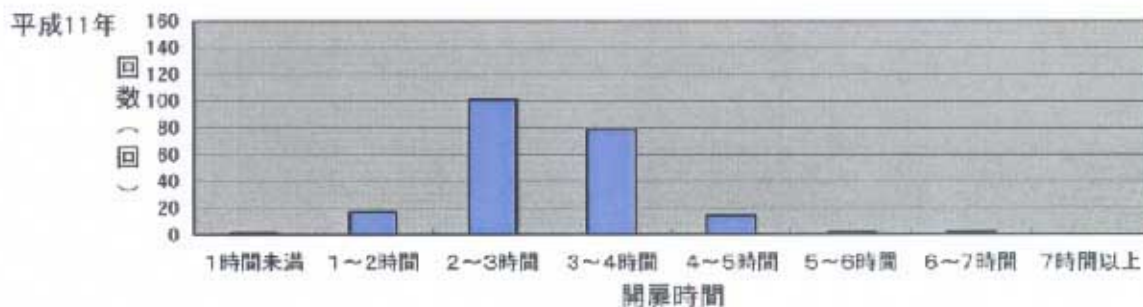
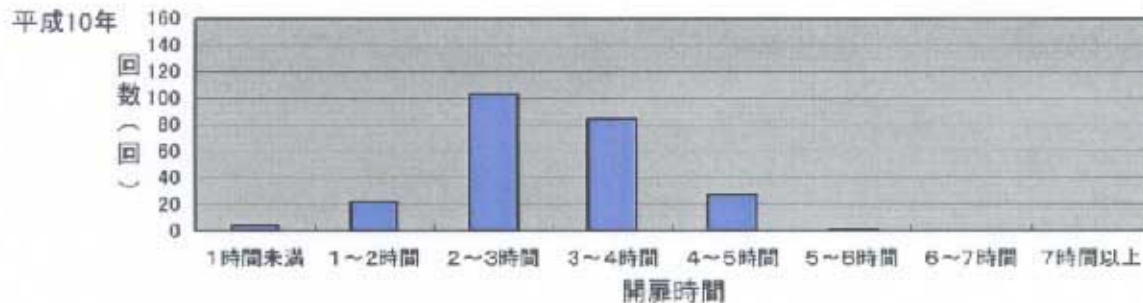
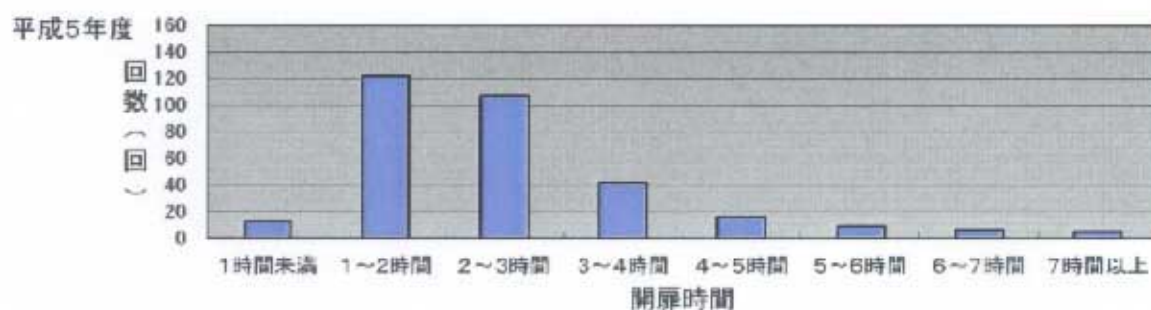
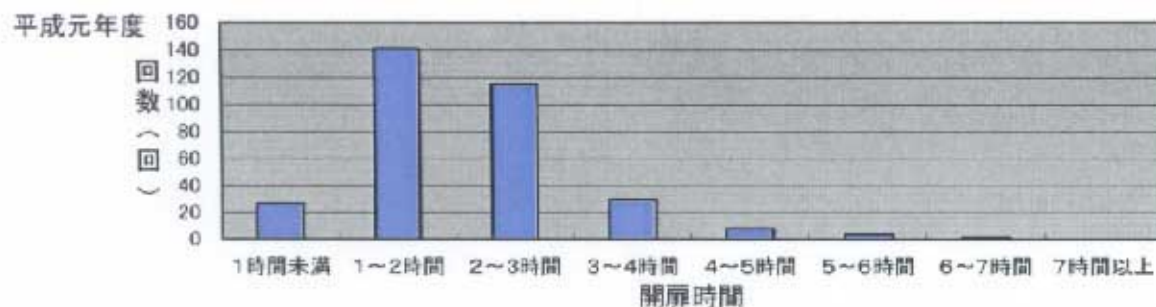
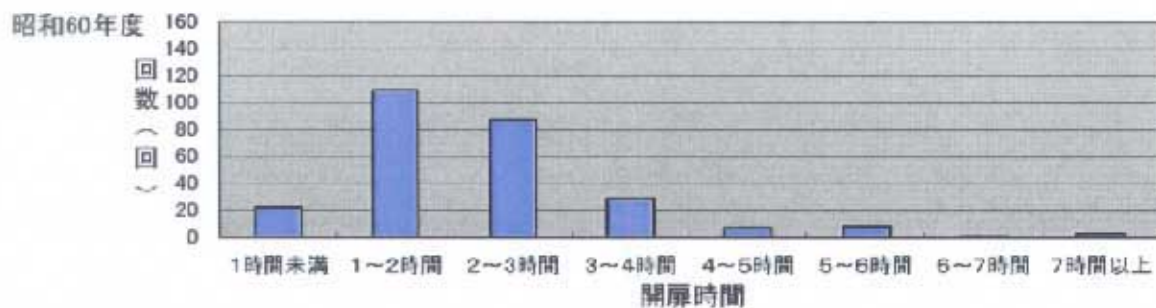


図 開扉時間

考察：以前に比べて現状はゲートを開けている時間が約1時間程度長い。

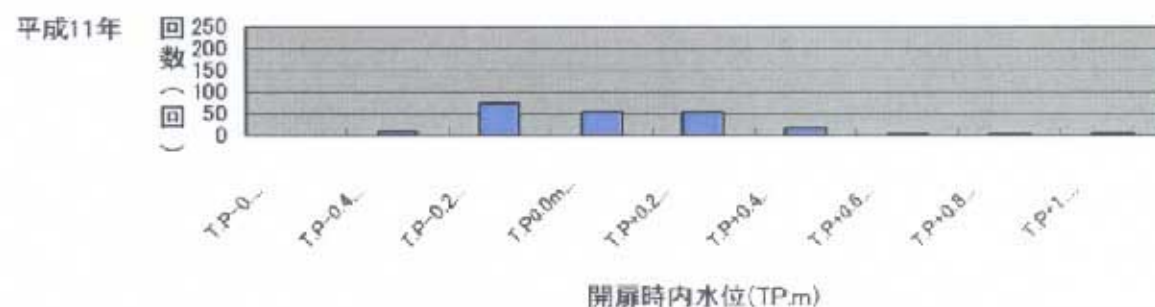
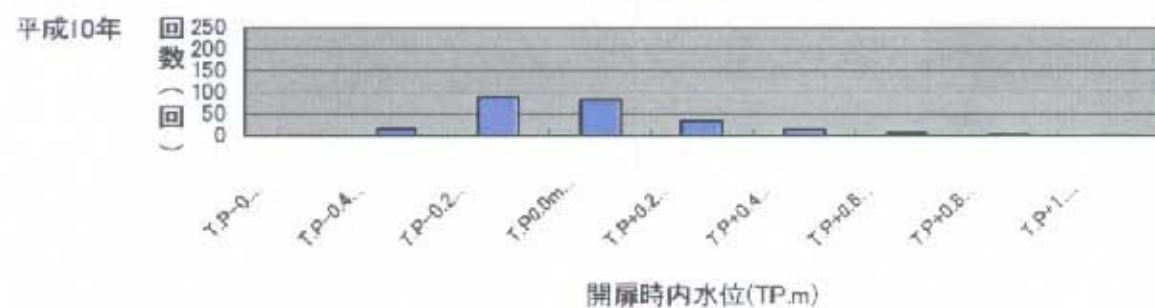
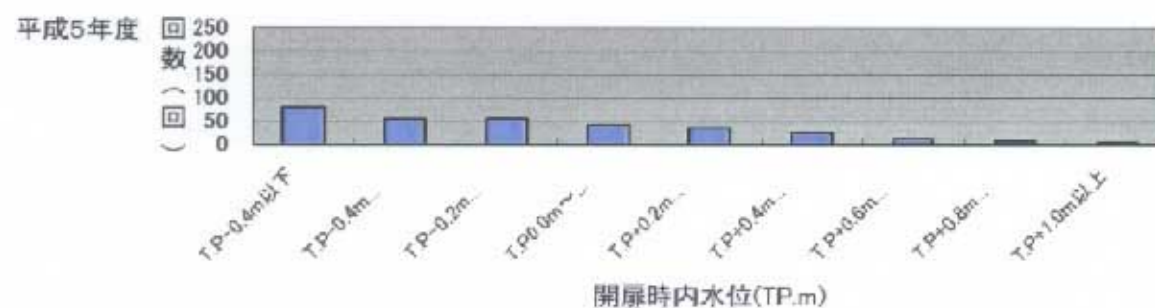
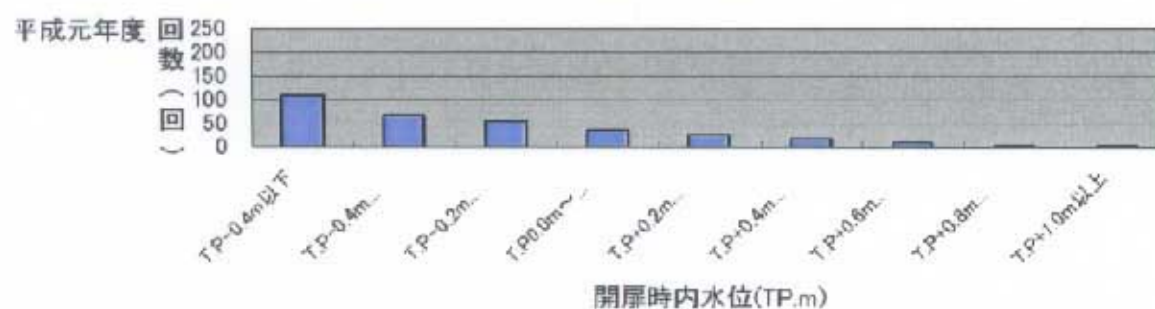
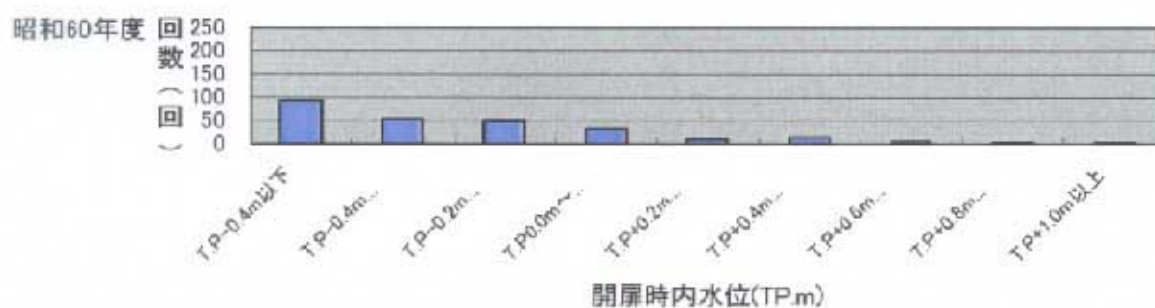


図 開扉時内水位

考察： 操作開始の内水位はH元年前後ではT.P-0.4m以下の低い水位で操作を行っていたが、近年では内水位はT.P±0.0m前後が多い。

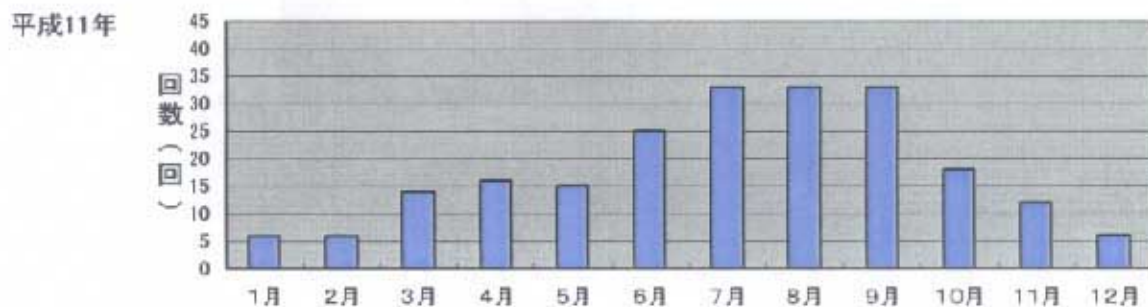
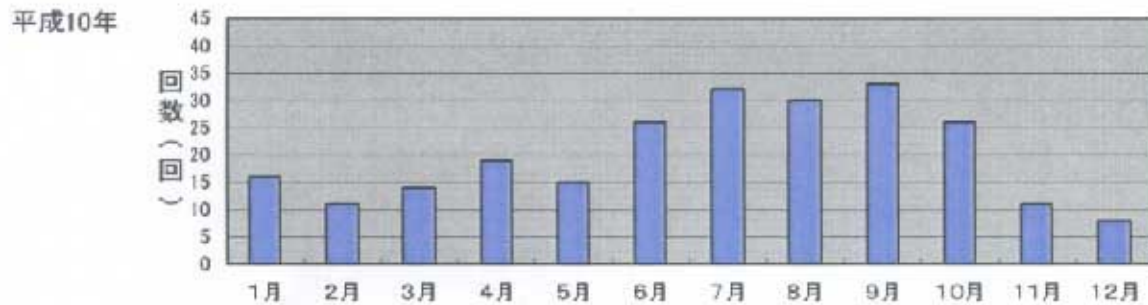
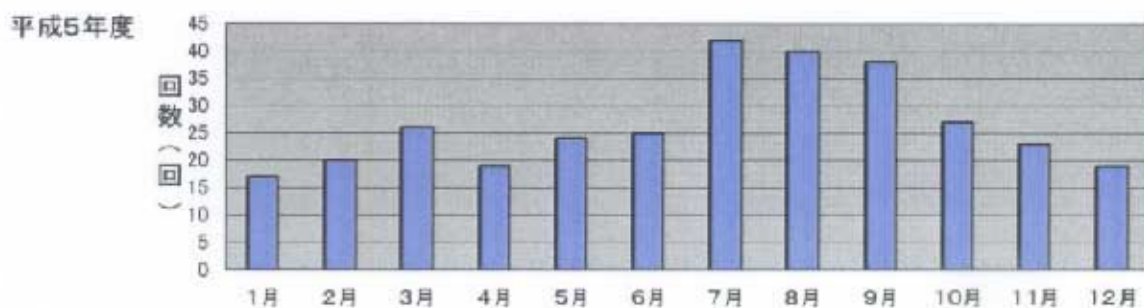
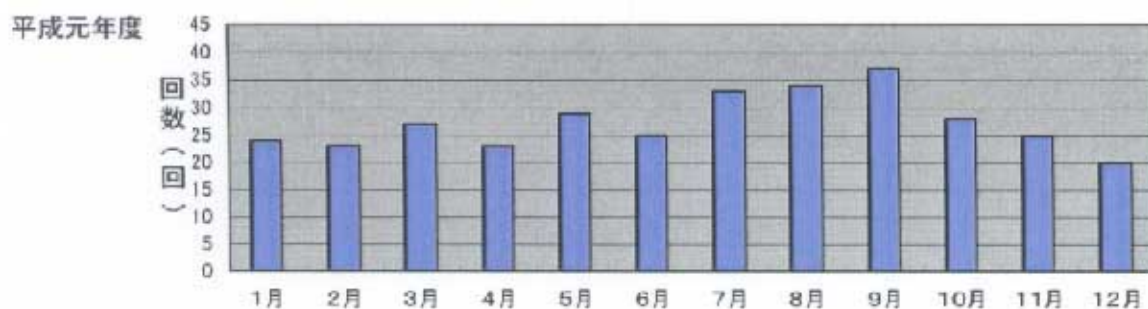
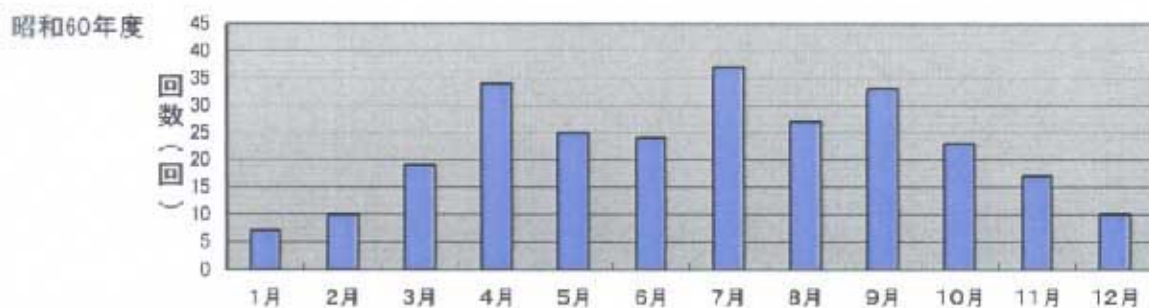


図 月別操作回数

考察：以前に比べて操作回数は減っている。
 ただし、水質の悪化する夏場の回数はさほど変わらない。